

糖尿病の血液透析患者における 胃不全麻痺に香蘇散が著効した一例

岡 良成^{*}，高津 成子，国友 桂一，宮崎 雅史

糖尿病患者は、ときに「食欲がなく、また少し食べただけで満腹になる」と訴える。この症状の原因が胃不全麻痺（gastroparesis）であることがある¹⁾。

透析を受けている糖尿病患者において、胃不全麻痺は、高頻度な他の糖尿病合併症や、血清アルブミン濃度の低値、および高い罹病率と死亡率を伴う²⁾。

胃不全麻痺では、胃ぜん動の低下のために食物の胃内への滞留時間が延長し、摂取した食物の吸収が遅れ、食欲が低下する。胃不全麻痺は、糖尿病患者の40%にみられ、しばしば心窩部痛、悪心、嘔吐、腹部膨満感あるいは食欲不振などの消化器症状を伴う。早朝空腹時に胃内視鏡検査で前の晩に摂取した食物を胃内に認めれば、胃不全麻痺の存在は確実である³⁾。

我々は、胃不全麻痺が確認された糖尿病の血液透析患者に、香蘇散が著効した一例を経験したので、若干の考察を加えて報告する。

【患者】62歳，男性。無職。

【主訴】嘔吐。

【既往歴】平成10年，糖尿病。平成14年，血液透析導入。平成17年，脳梗塞および左半身不全麻痺。

【家族歴】特記事項無し。

【現病歴】平成17年12月6日より嘔気で発症。12月19日，定期の血液透析のため来院し，種々の嘔気止めを施注されるも効果なく，入院となる。

【現症】身長157cm，体重（ドライ・ウエイト）44.0kg。体温37.1℃。

【経過】入院時 WBC 13000にて，細菌性の胃腸炎を疑い，抗生剤としてセフメタゾン（2

g/日）の静注とフロモックス（2錠/日）の内服を開始した。胃薬としては，ガスター（20mg/日）静注とセルベックス（3 C/日），プリンペラン（3錠/日）の内服を開始した。

12月29日，食欲が戻り，白血球増多も改善したため，抗生剤投与は中止した。しかし，嘔気が続くため，ガスターを内服（10mg/日）とし，プリンペランの内服も続行した。

平成18年1月28日，嘔気が改善しないため胃内視鏡検査。胃内に食物残渣多量。胃前庭部に点状出血多数。胃不全麻痺に伴う嘔気と診断した。コタロー香蘇散6.0g/日処方。

2月3日，ガスターはかえって消化の妨げになるおそれがあるため中止。

2月6日，嘔気消失していたため，胃不全麻痺の診断が適切と考え，ガスマチン（3錠/日）とセブニーP（3錠/日）を加えた。

3月11日，消化器症状無く，香蘇散を廃薬した。ガスマチンとセブニーPは続行とした。

7月28日現在，消化器症状は認めない。

考 察

香蘇散は代表的な理気剤である。一般には，憂うつ・抑うつ感があり，腹満・悪心・嘔吐などの気滞・肝胃不和を呈するものに用い，あるいは理気・解鬱を目標に他方剤と合方して使用する⁴⁾。かぜの初期症状にも有効であり，特に妊婦や胃腸が弱い人のかぜ薬として有用である。

胃内に食物残渣が停留するのは，漢方で言う食積もしくは宿食である。これらは元来食べ過ぎに伴う未消化物であり，そのベースには気虚が存在すると考えられている。しかし胃不全麻痺の病態は，糖尿病性の自律神経障害に伴う消化管平滑筋の機能異常であり，気虚というより

^{*} おか・よしなり，腎不全センター幸町記念病院，〒700-0923 岡山県岡山市大元駅前3-57。

は気滞と考えられる。また、この症例では食べ過ぎは考えにくく、患者自身も軽い抑うつ状態であったため、補気剤よりも、理気剤である香蘇散のほうが適切と考えた。

胃内視鏡検査で胃前庭部に見られた点状出血は、血液透析患者では非常に頻繁に見られる所見であり、この症例に特異的なものではない。

これまでに当院では、糖尿病の透析患者において、症状と胃内視鏡所見から胃不全麻痺と診断した場合に、香蘇散を処方し著効した症例を何例か経験している。

以上、胃不全麻痺の透析患者に、香蘇散が著効した一例を経験したので、報告した。

【参考文献】

- 1) Horowitz M, Fraser R: Disordered gastric motor function in diabetes mellitus. *Diabetologia*. 37: 543-551, 1994.
- 2) Eisenberg B, et al: Gastroparesis in diabetics on chronic dialysis: clinical and laboratory associations and predictive features. *Nephron* 70: 296-300, 1995

- 3) 透析百科 (<http://202.216.128.227/> 透析百科 /04-26.htm)
- 4) 森 雄材: 図説 漢方処方構成と適用 — エキス剤による中医診療 —, 136-137, 医歯薬出版株式会社, 東京, 1998



第10回 東京臨床漢話会のご案内

この度、第10回東京臨床漢話会を開催する運びとなりました。つきましては、下記のとおり開催のご案内を申し上げます。

日時：平成19年1月28日（日） 14：00～16：30

場所：東京CRO株式会社

東京都文京区後楽2-1-3 TL飯田橋ビル6階

(TEL) 03-3868-7200

演題：「漢方薬と有害作用」～安全・安心な治療のために～

講師：銀座内科診療所 院長 九鬼 伸夫 先生

参加費：無料

共催：小太郎漢方製薬株式会社、株式会社 栃本天海堂

事務局：小太郎漢方製薬株式会社 東京支店

(TEL) 03-3231-2340 (FAX) 03-5201-5566

*尚、(株)栃本天海堂による生薬解説シリーズも併せて実施いたします。